JEICNEWS

Japan EMF Information Center News

2017年1月発行

No.

47

Index

P2

巻頭言

年頭挨拶

Р3

巻頭言

新任挨拶

P4~6

EMFトレンド情報1

米国リスク分析学会で高校生の電磁波へのリスク認知について報告しました。

P7~8

EMFトレンド情報2

磁界測定プロジェクトについて(中間報告)

P9

JEICレポート

「電磁波セミナー」のご案内

P10~11

コラム

トナカイと送電線



年頭挨拶

電磁界情報センター所長 大久保 千代次

新年明けましておめでとうございます。

昨年末は、トランプ氏がアメリカ合衆国次期大 統領に当選され自国は元より世界各国で大変注目 を浴びました(図1)。私もクリントン氏が結局は当 選するものと思っていましたが、世界中の報道機関 の下馬評を覆し、予備選挙を勝ち抜き、本選挙で も当選したのはご承知の通りです。このニューズレ ターがお手元に届く頃には、正式に第45代アメリカ 合衆国大統領に就任していることでしょう。トラン



図1 米タイム誌

プ氏は歴代の大統領 と比べて非常に個性 が強く、歯に衣を着せ ない発言に世界中が 振り回されています。 また、昨年6月末には、 イギリスのEU離脱と いう、予想外の国民投 票が世界中を震撼させ たのも記憶に新しいこ とでしょう。

両者の共通点は、世論の動向解析が得意な主 要報道機関の予測に反した事実が出来したことで す。アメリカ大統領選では、トランプ氏は白人系低 中所得者層から圧倒的な支持を得ています。トラ ンプ氏はツイッターやフェイスブックなどのソーシャ ルメディアを「最高のコミュニケーション手段」と 位置づけ、これを活用して勝利したと通信社AFP が2016年11月13日で報道していました。白人系低 中所得者層にとって、選挙期間中に次期大統領に 期待される世界的視野に基づく政策を解説する新 聞やテレビの報道よりも、トランプ氏の単純で何度 も繰り返すツイッターからのアメリカ第1主義という メッセージは、単純明快で、心地よく響いたことが 選挙結果を左右したとその後の報道各社が解説 しています。イギリスのEU離脱についても、毎日新

聞社が2016年7月8日で、「英EU離脱とソーシャル メディア」という特集を組み、インターネットやソー シャルメディアが国民投票に果たした役割を解説 しています。その中では、離脱運動側の公式ツイッ ターアカウント (@vote leave) が、①投票前日に英 大衆紙サンの表紙(図2)を紹介し、「明日を独立 記念日にしよう」と呼びかけたこと、②「具体的な 政策の是非よりも、イメージに訴えかけるアプロー チが効果的なターゲット」を狙う戦略と、ソーシャル メディアは、ある意味「相性」がよいことをわかりや すく示したのが今回のイギリスの国民投票だった こと、③国民投票後に英国で「EUって何?」という キーワード検索が急増。離脱に投票したものの、国 内外が大混乱する様子に驚き、慌てて自分たちが 何を支持したのかを今さら確認しようとしているこ とを紹介しています。6月28日発表の英国サーベイ

結果によれば、離脱 投票者の7%が「離 脱に入れなければよ かった」と悔いてお り、7%は113万人に 相当。実際の投票で 離脱が残留を上回っ た127万人ですので、 この数字に近いと述 図2 英サン誌

べています。

ション社の世論調査



日本でも憲法改正の是非が取りざたされるな か、この問題は人ごとではありません。有権者とし ては内容を良く理解せず、ソーシャルメディアが送 り出す「分かり易い、あるいは、過激なメッセージ」 に流されて後悔しないように、私自身を含め、国民 は憲法を良く学び、冷静に議論し判断しなければ ならないと思っています。

新任挨拶

情報提供グループ 山戸 祐貴

昨年7月1日付けで情報提供グループに着任いた しました山戸と申します。私は職場の中では最年少 であり、周りの先輩方に比べればまだまだ未熟者 はございますが、世界的にも類を見ないほど電磁 界に関する豊富な情報を有する、この電磁界情報 センターで知識やスキルを向上させ、皆様の不安や 疑問にお応えできるよう、これからも業務に取り組 んでいく所存です。

これまでの業務を振り返り、驚いていることはセンターへのお問合せ件数の多さとご相談者様の過度な不安の声です。主なものとしては情報誌やインターネットの「電磁波は危険」に驚き慌てて相談される方、新しい生活環境で電磁波が気になり漠然とした不安が生じた方、原因不明の体調不良に困り果て手掛かりを求められる方など様々です。電磁波に対するリスクの感じ方は人それぞれですが、これらの質問の背景には「電磁波の健康影響」に関する無責任な情報、誤解を招く表現が原因であると考えています。スマートフォンやパソコンで簡単に検索が出来る現代では、膨大な情報量の中から根拠のある情報を正しく理解することが大切であると思います。その「正しい情報」を皆様にお伝えするのが私たちの仕事であります。

さて、もし貴方が電磁波に関連して身体の不調を感じた場合や、大切な子供への健康不安を感じたとき誰に相談されますか。恐らくは信頼のできる医院の医師や、学校では養護教諭、地域では保健所の先生に相談をするのではないでしょうか。情

報提供グループでは、そのような学校保健関係者 や医療・保健関係者が集まる学術集会においてラ ンチョンセミナーを開催し、低周波電磁界・高周波 電磁界の健康リスク評価や、電磁過敏症などにつ いて、WHO(世界保健機関)の見解をわかりやす くご説明させて頂いております。H28年度は12月末 時点で1.393名の先生がランチョンセミナーにご参 加を頂きました。講演後には多くの参加者からご質 問や、経済産業省や総務省、環境省、電磁界情報 センターが発行する電磁界パンフレットの請求があ り、電磁波への関心の高さを感じております。弊所 のランチョンセミナーに参加して頂いた先生方を通 して、電磁界に対して不安を持つ方々へ正しい情報 が届くことを期待しております。更に詳しく情報を知 りたい場合は電磁界情報センターまでお問合せ下 さい。皆様の不安や疑問を少しでも解消できるよう お手伝いをさせて頂きます。

情報提供グループではランチョンセミナーの他に、インターネットや教育関係新聞への広告掲載、パンフレットの作成・配布など様々な方法に取り組んでいます。これらの活動は皆様方の賛助会費によって支えられています。それぞれの活動はデータ分析し改革・改善を行いながら、最小限のコストで最大限のパフォーマンスが発揮できるよう努力したいと思います。

2017年は酉年です。電磁界情報センターが更なる飛躍の年となるよう尽力したいと思いますので、 今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

米国リスク分析学会

高校生の電磁波への リスク認知について報告しました。

電磁界情報センター所長 大久保 千代次

約1年前のニューズレター (第42号) で、妊婦は電磁波に対する心配度が同年代の一般男女に比較して高いことを紹介しました。今回は、高校生の電磁波へのリスク認知についてアンケート調査した結果を2016年12月にカリフォルニア州サンジェゴ市で開催された米国リスク分析学会で発表しましたので、その内容を紹介します。

アンケートは2014年6月にインターネットで行いました。平均年齢16.7歳の高校生の1006人(高校生群)と、平均年齢30.8歳の成人男女1224人(男性が47%、女性が53%で構成)を対照群として、①電磁波の健康影響への不安感(リスク認知)、②不安と感じる電磁波発生源、③思い浮かぶ電磁波の健康影響、④組織・機関からの情報への信頼度、⑤一般情報の入手先、⑥電磁波に対する知識・理解度などを調査しました。主観的評価を求める質問には5段階で回答してもらいましたが、解析には3段階に分けて行いました。例えば、不安感に対して、"とても心配" "やや心配" "どちらともいえない" "あまり気にしない" "全く気にしない"、の5段階を "心配" "どちらともいえない" "気にしない"、の3段階で、信頼感に対して、"信頼できる" "どちらかと言えば信頼できる" "どちらとも言えない" "信頼できない" の5段階を "信頼できる" "どちらともいえない" "信頼できない" の3段階で、両群を比較しました。

①電磁波の健康影響への不安感 (リスク認知)

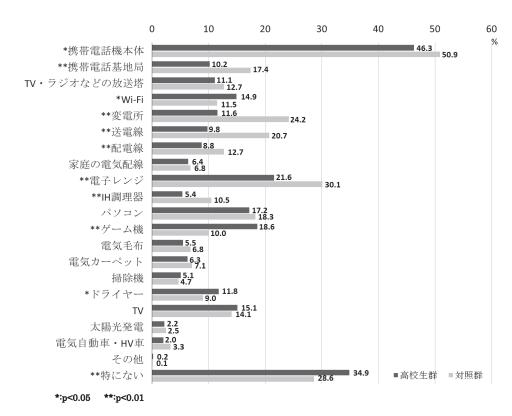
電磁波の健康影響が心配と回答したのは、高校 生群で43%、対照群では40%、気にしないと回 答したのは、高校生群で29%、対照群では34% で、高校生の方が電磁波の健康影響に不安を持つ 傾向がありましたが、統計的には有意な差はあり ません(図1)。



図1 電磁波の健康影響への不安感(リスク認知)

②不安と感じる電磁波発生源 (複数回答)

両群とも携帯電話がトップで、次いで電子レンジですが、成人男女の方が数多くの発生源を挙げています。高校生群では、ゲーム機、パソコン、テレビ、Wi-Fiの順です。対照群では、変電所、送電線、パソコン、携帯電話基地局の順となっています。不安と感じる対象として両群で差が著しいのは変電所、送電線、電子レンジ、携帯電話の基地局で、対照群の方がいずれも約10%程度高値を示しています。しかし、ゲーム機に不安を感じるのは高校生群で19%、対照群で10%と逆転しており、高校生の生活実態を反映していると推察されます。なお、不安と感じる電磁波発生源は思い浮かばないと回答したのは、高校生群で35%、対照群では29%でした(図2)。



<u>各項目の左肩に*あるいは**という記号がありますが、*は、高校生群と対照群との間に統計的に明らかな差</u> (統計学ではp値が0.05よりも小さいことを意味しています) があることを示しています。**は、その差 (統計学ではp値が0.01よりも小さいことを意味しています) がより確実であることを示しています。以降の図でも同じです。

図2 不安と感じる電磁波発生源(複数回答)

③思い浮かぶ電磁波の健康影響(複数回答)

上図(図2)で分かるように、両群とも様々な電磁波発生源に不安を覚えていますが、具体的な健康影響については、53%の高校生が、43%の成人男女である対照群が思い浮かばないと回答しています。何となく不安といったイメージが先行しているのかも知れません。両群で大きな差を示した

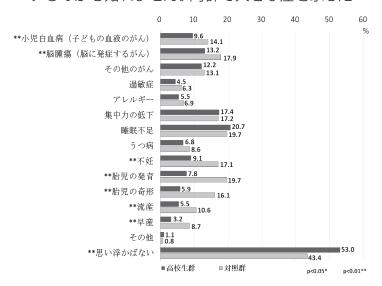


図3 思い浮かべる電磁波の健康影響(複数回答)

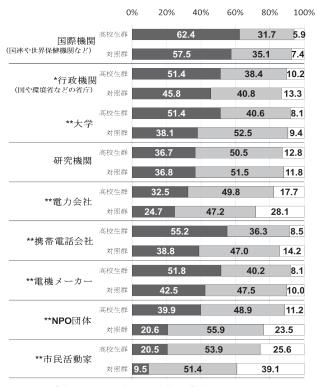
のは、不妊、胎児の発育や奇形、流産、早産への影響で、対照群で約10%程度高く認知されています。電磁波ばく露の長期的影響としてその可能性が指摘されている小児白血病や脳腫瘍などの「がん」に対する懸念も対照群で高値を示しています。両群で差が見られないのは、集中力の低下、睡眠不足といった項目でした。高校生にとって、出産や育児、「がん」への影響は間近に迫った事象とは自覚せず、関心が薄いのかも知れません(図3)。

④機関・組織からの情報への信頼度

全ての機関や組織からの情報に対する信頼度が、高校生群で明らかに高いことが分かります。成人男女の対照群に比べて、純粋なのでしょう。両群とも国際機関と政府機関への信頼度は高く、高校生群では62%と51%、対照群でも58%と46%が、信頼できると答えています。一方、市民活動家からの情報に対しては、両群とも信頼感が低く、高校生群は21%、対照群は10%しか信頼すると

EMFトレンド情報 1

答えていません。事業体からの情報に対する信頼度ですが、電力事業者からの情報には高校生群の33%、対照群の25%が信頼すると回答していますが、他の事業体(携帯電話会社、電機メーカー)に比べて信頼度が低く、その背景に原子力発電事故があると思います。(図4)。



■信頼できる■どちらともいえない□信頼できない p<0.05* p<0.01**

図4 機関・組織からの情報への信頼度

⑤一般情報の入手先(複数回答)

両群とも90%前後の人がテレビから情報を入 手していると回答。次いでインターネットから情報 を入手しているのは、高校生群が84%、対照群が

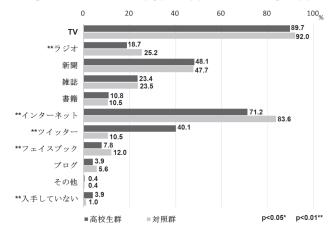


図5 一般情報の入手先(複数回答)

71%です。3番目が新聞で両群とも48%でした。 雑誌と書籍から情報を入手する割合は、両群とも23%と11%で、活字離れが進んでいるのかも知れません。両群で入手先が異なる数値を示しているのは、ツイッターで、高校生群は40%と高く、対照群は11%と低いのですが、フェイスブック、ブログを情報入手先に選ぶ割合相対的に少数であるものの、対照群の方が高値を示しています。何故この様な逆転現象がおきているのかは不明です(図5)。

6電磁波に対する知識・理解度

電磁波に関する知識や理解度は、現役の高校生の方が豊富であろうと期待したのですが、電磁波の発生源を知っているかという問いに高校生群の34%、対照群の16%が知らないと回答していま

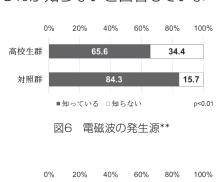




図7 電磁波の発生原因**

今回の調査から、高校生は、電磁波に関する知識も低く、電磁波の健康影響にも余り関心を示していないことが分かりました。また、さまざまな情報に対する信頼度は成人よりも高いことも分かりました。言い換えれば、電磁波に無知・無関心であるものの、一般情報をすぐ信用する傾向が伺えます。高校生が科学に基づかない電磁波の健康影響に関する情報に傾かないように、学校教育の過程で何らかの媒体を使ってWHOからのメッセージなど科学に基づいた情報を学べる方策を今後模索しなければと思っています。

磁界測定

プロジェクトについて(中間報告①)

情報調査グループ 大坪 茂

1 目的

現在、電磁界情報センターで作成・使用している パンフレットやセミナーで紹介している家電製品 より発生する磁界のデータは、一般財団法人家電 製品協会が平成15年に測定したデータを使用して います。

しかし、測定から10年以上が経過しており、家電製品の機能の充実や省エネ化なども進んでいることなどから、独自に最新家電製品から発生する磁界の値を測定するプロジェクトを立ち上げ、今後、ホームページやパンフレット、セミナー資料で当該データを活用しようと取り組んでいます。

なお、平成25年に一般財団法人家電製品協会から新たな実測データが公表されているものの、平成17年の国際的な磁界測定規格(IEC62233)に基づいた測定結果となっており、国際的ガイドライン値に対する割合(%)での公表データであるため、一般の方には分かり難く、健康影響で話題となる0.4 μ T や電磁界情報センターが貸出サービスを行っている磁界測定器の測定値とも比較できないため、このプロジェクトを実施することとしています。

2 計画

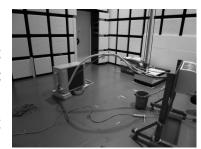
平成27年度から、テレビ、エアコン、洗濯機など40種目の家電製品をメーカ別などに各3台程度ずつ計120台程度測定する計画です。かなり大がかりな取り組みになりますので、3カ年計画で磁界測定を実施することで進めているところです。

3 測定結果(中間報告)

今回、電磁界情報センターと同じ一般財団法人電気安全環境研究所の組織で、横浜にあるEMC試験センターにおいて、大型家電の洗濯機6台とエアコン3台の測定を2日間かけて行いましたので、その内容についてご紹介します。

まず、エアコンの測定に関してですが、冷房運転・暖房運転がありますので、周囲温度などの運

転環境を作ること が重要になります、 また洗濯機の運転 には給排水が可能 な環境が必要です。 このような測定環 境を整備すること は、一般の事業所 の執務室や会議室 では大変難しいこ とから、日頃から製 品試験などを行っ ているEMC試験セ ンターをお借りし て、磁界測定をする こととしました。



エアコン測定の環境



洗濯機測定の環境

今回、測定した製品は、エアコン、ドラム式洗濯機、縦型洗濯機の3品種、計9台で、それぞれインターネットの比較サイトで人気上位機種をメーカ別などに3台選定しました。測定結果の概要は以下のとおりです。

EMFトレンド情報 2

エアコン

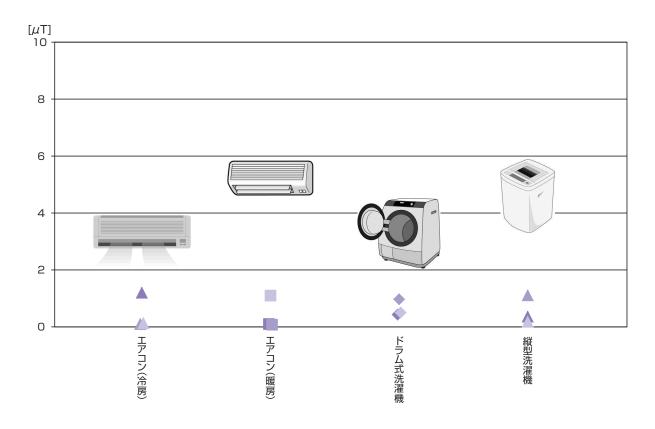
メーカ	運転モード	測定距離	磁界の大きさ	電流の大きさ
A社	冷房運転	- 30cm	0.1 μΤ	5.6A
A 1L	暖房運転		0.1 μΤ	8.2A
B社	冷房運転		1.2 <i>μ</i> T	6.1 A
D∤⊥	暖房運転		1.1 μΤ	9.4A
C社	冷房運転		0.1 μΤ	7.5A
U↑L	暖房運転		0.1 μΤ	7.0A

ドラム式洗濯機

メーカ	運転モード	測定距離	磁界の大きさ	電流の大きさ
D社	脱水運転		1.0 μ T	1.4A
E社	脱水運転	30cm	0.4 μΤ	1.9A
F社	脱水運転		0.5 μΤ	1.5A

縦型洗濯機

メーカ	運転モード	測定距離	磁界の大きさ	電流の大きさ
G社	脱水運転		0.4 μΤ	0.7A
H社	脱水運転	30cm	0.2μΤ	1.2A
 l 社	脱水運転		1.1 μΤ	0.6A



4 測定結果の考察

前記に記載のとおり、家電製品から発生する磁界の大きさは、国際的なガイドライン値200 μ Tと比べると、非常に小さいことが分かります。東日本

大震災以降の電力不足などもあり、メーカや消費者の省エネ志向の高まりからか、消費電力の低減がすすんでおり、発生する磁界も低減しているように感じました。



「電磁波セミナー」のご案内

電磁界情報センターでは、電磁波 (電磁界) に不安や疑問を持つ方に少しでも理解を深めて頂くために、送電線や家電製品など身のまわりの電磁波 (電磁界) とその健康影響について、世界保健機関 (WHO) などの科学的な見解をわかりやすくお伝えすることを目的としたセミナーを下記のとおり開催します。多くの方のご参加をお待ちしております。

1. 開催予定

開催都市	開催日時	会場	定員
広島市	2月16日(木) 13:00~15:00	広島YMCA国際文化センター 402会議室(本館4階)	50名

2. お申し込み方法

参加をご希望の方は、事前に以下のいずれかの方法でお申し込みください。(参加費無料)

・インターネットから: http://www.jeic-emf.jp/event/info.html

·FAXから:上記URLよりダウンロードしたFAX申込用紙に必要事項を記載、もしくは、ご住所、お名前、連絡先(電話番号、FAX番号)、電磁波セミナー開催都市を明記したものを下記お問い合わせ先へ送信

・ハガキから:ご住所、お名前、連絡先 (電話番号、FAX番号)、電磁波セミナー開催都市を明記したものを下記お問い合わせ先へ郵送

【お問い合わせ先】

シーアンドピートレーディング株式会社 イベント運営部 電磁波セミナー事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-1-24オフィスイワタ第一 2F

TEL:090-5690-1250 / FAX:050-3730-5111

URL: http://www.jeic-emf.jp / E-mail: gest-jeic@jeic-emf.jp

お詫びと訂正

JEIC NEWS 46に関するお詫びと訂正について

昨年10月発行のJEIC NEWS 46の内容の一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正致します。 読者の皆さまには、ご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。

5ページ (図3の説明文)

誤) GSM変調信号を用いた電波ばく露での雄ラットの実験終了時までの生存率変化。

正) GSM変調信号を用いた電波ばく露での雌ラットの実験終了時までの生存率変化。

5ページ(図4の説明文)

誤) CDMA変調信号を用いた電波ばく露での雄ラットの実験終了時までの生存率変化。

正) CDMA変調信号を用いた電波ばく露での雌ラットの実験終了時までの生存率変化。

8ページ(左段の中段下)

電気自動車のWPT装置の結合係数: (誤) 0.05→(正) 0.15

ガイドラインの参考レベル: (誤) 20倍→(正) 6.7倍

354

トナカイと送電線

新しい年が始まりました。今回は、少し遅くなりましたが、クリスマス・ソングからの話題を取り上げます。ここ数年、クリスマス・シーズンになると、

「雨は夜更け過ぎに雪へと変わるだろう・・」の歌い出しで有名な山下達郎の楽曲「クリスマス・イブ」が流れ、暮れの巷が賑わいます。この歌は1983年に発売されて、いつの間にか我々にとってポピュラーなクリスマス・ソングになり、2016年の春には、シングル・チャートに連続30年間チャート・インしたとしてギネスの世界記録に公式認定されました。

数多くのクリスマス・ソングがありますが、「赤鼻のトナカイ」を思い出す方がおられるのではないでしょうか。「真っ赤なお鼻のトナカイさんは、いつもみんなのわらいもの・・」という歌い出しのこの歌はテンポがよく巷を賑わしていましたが、今ではあまり耳にすることもなくなりました。「赤鼻のトナカイ」は、1938年にシカゴのロバート・メイが娘に書いた詩をシカゴの通信販売会社が自社製品の宣伝用として書き綴った児童書をもとに、1948年に発売された楽曲「Rudolph、the Red-Nosed Reindeer」(作詞・作曲:ジョニー・マークス)で、次第に有名になっていきました。

仲間のトナカイから笑いものにされていた赤い 鼻のルドルフを、サンタはクリスマスの深い霧の中 でソリを曳くリーダーに選びました。何故、ルドルフが選ばれたのでしょうか。この問に対して「鼻が赤く輝くことがトナカイの視覚から説明できる」として、選ばれた理由をアメリカ、ダートマス大学の生物学のドミニー教授が紹介しています。

教授はトナカイが北極圏の冬の暗い中、また雪 の中で天敵の狼や食べ物のコケを探しだすのに 紫外線を見る能力、また光を反射して眼を光らせ 網膜を守る光沢タペータム(反射板)を持ってい ることに着目しています。真冬の北極圏では太陽 が地平線低く、また大気中で反射する光が青色、 紫外線となり、トナカイの持っている視覚能が役 に立ち、例えば、コケは紫外線を吸収するが、雪は 紫外線を反射するため、トナカイは雪の間にある コケを見つけ出せます。また、夏場のトナカイの眼 の網膜は金色ですが、冬になると色が濃い青色に 変化します。そして、冬では地面が冷えた結果、放 射霧や氷霧が光を散乱させ、見通しを悪くし視力 を低下させます。加えて、深い霧の中では赤色光 より青色光が先に吸収されるので、ソリを曳くトナ カイが青色を見ることが難しくなります。

ドミニー教授はロバート・メイの児童書を改訂 した版を参考にしていますが、クリスマスの時期 にセイヨウヒイラギの茂みの中にルドルフが身を 隠すと、鼻の赤さがヒイラギの赤い実 (ホーリー・ ベリー) の間にとけ込んでしまうこと、この赤い実 の反射率のピークは光の波長で700ナノメートル であることを確認しました。そのため、ルドルフの 鼻の赤さが赤い実と同じレベルの波長であるとす ると、赤鼻がフォグライト(ランプ)としての機能 を持つことになり、教授は、深い霧のクリスマスの 夜、サンタがプレゼントを配る時のソリを曳くトナ カイのリーダーに、仲間からは目印になる赤い鼻 を持つルドルフが選ばれたと、結論付けました。ル ドルフ以外にトナカイの仲間には鼻の赤い個体は いません。鼻の赤いのはルドルフの個性ですが、ド ミニー教授は鼻が赤いことが役に立つのなら、何 故赤鼻のトナカイが増えないのかと考察を加えて います。その理由として、気候変動により霧の日が 減っているのでルドルフの出番が少なくなってい ること、またルドルフが赤鼻になったのは後天的 な感染性の疾患により、親から子には遺伝しない ので子孫に伝わらないことを紹介しています。

さて、長距離を群れで移動する動物であるトナカイが高圧送電線を避けるような行動を取ることがノルウェーの研究者が報告し、2014年3月14日付けのNature Newsには「送電線をトナカイはなぜ避けるのか」の見出しで紹介されています。その理由に高圧送電線施設から生じる紫外線が関係しているとしています。高圧送電線の絶縁箇所では、降雨や降雪など気象条件によっては微弱で不規則な放電が見られ紫外線が生じることがあります。恐らく、このような微弱な放電によって生じる紫外線がトナカイの視覚能と関係しているのではないかと考えられますが、一方では、トナカイの行動を調べると送電線を特に忌避しているよ

うなことはないとの報告もなされています。

風力・水力発電所の設置、高圧送電線の敷設などで見られるように、最近、北極圏ではヒトの経済活動が活発になり、野生動物の生存域が脅かされるようになってきています。最新のニュースは、国際自然保護連合が地球温暖化の影響によりトナカイの生息数が減っていることから、トナカイを絶滅危惧種に分類したことを、伝えています。

最後に、クリスマスの時期になると多くのクリスマス切手が発行されます。1991年にフィンランドからが発行されたクリスマス切手はルドルフがモデルなのでしょうか。また、将来トナカイのソリを曳いたサンタがプレゼントを配ることもなくなるのでしょうか。

(T.S)



____ フィンランドのクリスマス切手 (1991年)

参考

- Dominy NJ (2015): Reindeer vision explains the benefits of a glowing nose. Frontiers for Young Minds. Published: 21 December doi: 10.3389/ frym.2015.00018.
- · Hogg C et al (2011): Arctic reindeer extend their visual range into the ultraviolet. J Exp Biology 214, pp.2014-2109.
- · Tyler N et al (2014): Ultraviolet vision and avoidance of power line in birds and mammals. Conservation Biology 28 (3), 630-631.
- · Forbes BC, et al (2016): Sea ice, rain-on-snow and tundra reindeer nomadism in Arctic Russia. Biology Letters. 12:20160466(http://dx.doi.org/10.1098/rsbl.2016.0466)

電磁界情報センター賛助会入会のご案内

当センターは、センターの活動にご理解をいただける皆さまの賛助会費によって支えられています。 賛助会員には3つの種別があります。

●法人特別賛助会員(1号会員) 年会費100万円/口

●法人賛助会員 (2号会員) 年会費 1万円/口

●個人賛助会員 (3号会員) 年会費 3千円/口

入会をご希望される方は、センターホームページへアクセス、又は電話/FAXにてお問い合わせ下さい。

電磁界情報センターホームページURL http://www.jeic-emf.jp/

TEL: 03-5444-2631/FAX: 03-5444-2632

「JEIC NEWS」に対してご意見・感想をお寄せ下さい

「JEIC NEWS」は、センターの活動報告、国内外の最新情報、電磁界(電磁波)に関する豆知識などの記事を2カ月に1回程度で発行しています。読者の皆さまからの本誌に対するご意見・感想をお寄せ下さい。記事としての掲載など誌面づくりに活用させていただきます。

例

- ●海外の専門家の記事を紹介してほしい。
- ●電磁界(電磁波)に関する技術解説記事が読みたい。
- ●電磁界情報センターのフォーラム・セミナーに参加して良かった。(もっと改善してほしい)
- ●電磁界(電磁波)の説明や表現をもう少し分かりやすくしてほしい etc.

※掲載にあたり、読みやすさの観点から表現を変更・修正させて頂くことがあります。 ※個人への誹謗・中傷に当たる表現は削除させていただきます。

ご投稿は、下記に掲載の連絡先(電話、FAX、E-mailのいずれか)までお願いします。 皆さまの声をお待ちしています。

編集後記

今回、当センターが独自に取り組んでいる家電製品から発生する磁界レベルの測定結果の一部について、ご紹介させて頂きました。これまでの測定の結果からは、ICNIRPのガイドライン値を大きく下回り、思ったほど大きな磁界は発生していないことが分かりました。

引き続き来年度にかけて、家電製品から発生する磁界レベルについて測定していきますので、測定結果がでれば、また本紙やホームページなどで紹介していこうと考えています。

情報調査グループ 大坪 茂

JEIC NEWS No.47 2017 (平成29) 年1月31日発行

編集 電磁界情報センター 情報提供グループ 発行人 電磁界情報センター所長 大久保千代次 住所 〒105-0014 東京都港区芝2-9-11 3F

連絡先 TEL:03-5444-2631 FAX:03-5444-2632 E-mail:jeic@jeic-emf.jp

URL http://www.jeic-emf.jp/